

登場人物一覧

これだけで、なんとなく話が見えてくるから不思議。

ただし、最初に読むと多すぎていやになるかもしれない。それに、ひとつによっては、説明がくどすぎて癪に障ることもあるかもしれない。そのへんはまあ、お好みで。なんといつても、これは備忘録だから。伝統的に。

クラウド・ストライフ

無敵の十六歳（本人談）。ぜんぜん見えないが職業軍人。セフィロスつきの家政婦グロリア未亡人から譲り受けたボラロイドカメラにはまっついていて、どこへでも持ち歩いては、ぱちぱちやっっている。このお話の舞台は冬なので、すくすくすくすい耳あてをしている。冒険精神旺盛。考えようによつては過多。でもこれは、年ごろの少年なら仕方がないことだ。

セフィロス

「元英雄。でも一部にはあれは幻だったと云われている。なぜって、彼はただいま休職中だからだ。理由は、仕事で自分に合わないから。だから、長期休暇を取ってもぜんぜん問題ない。容姿に反比例して性格が地味なので、顔は覚えてもらえるが中身はなかなか覚えてもらえない。どこへでも本を持ち歩くくせがあるけれど、目下その項目を「どこへでも本とクラウドを……」に訂正しなければならいのではないかと思っている。

ザックス・フェア

ソルジャーークラスファースト。その名字が指し示すところの精神を持ち合わせた稀有なひと。いつもなにかしやべっていないと気が済まないのが玉にきずだけれど、それだって、慣れれば大したことはないし、彼がどれだけ役に立つ男であるか知っているひとにとっては、そんなことは欠点のうちに入らないくらい些細なことだ。特技は、すくよくよく寝ること。父親から口唇ヘルペスウイルスをもらい受けているので、あんまりストレスがかか

ったり、疲れすぎたりすると、それが出てくる。本人はあんまりよく思っていない。

ミッドガル壱番街の駅長と副駅長、赤帽ふたり

その名の通りのひとたち。赤帽ふたりは、幼なじみど
うし。

ウィリアム・ウィリアムソン氏

神羅コンチネンタルエクスプレスの客室係。その道の
プロ。五十三歳独身。

プレジデント神羅

神羅エレクトリックパワーカンパニーの社長。ただの
狸じじいかと思いきや、セフィロスに熱心に気分転換を
兼ねた旅行を薦めてきたり、乗り物酔いがひどかったり、
水虫のカサツカキだったりする。

クラウドの母さん

肩書きの通り。息子をすごく愛していて、文句なく世
界で一番かわいいと思っっている。その次は自分。クラウ
ドに荷物を送ることと、自分の美貌を維持するのが生き
がい。息子のこととなると、見境も容赦もなくなる。毒

舌で皮肉屋。悪いひとではないけど、要するに、ちょっ
と恥ずかしがり屋なのだ。

マグリム氏およびその婚約者のマティルダ・ラスカ嬢

うら若き貿易商と、その婚約者。棲遅したマグリム氏
の父親に会いに、ミディールへ赴く途中。マグリム氏の
父親は元ジュノン駐屯軍大佐。セフィロスはそのひとに、
たいへん世話になったことがある。マティルダ嬢はたい
へん美人で、そして美人というのは不幸な目に遭いやす
い。物語の中では。

ゲインシユタルトさん

チヨコボ車の御者。その道四十年のベテラン。子ども
が六人いて、それでも足りないくらい子どもが好き。チ
ヨコボのことも、人間とまったく変わりなく愛している。

ケルバ

ゲインシュタルトさんのチョコボ。オス。六歳。神經質
だけど、仕事は丁寧。一度なついたひとはぜつたいに忘れ
ない、義理堅いやつ。

パンゴ

同じくゲインシュタルトさんのチョコボ。オス。三歳。
陽気なお調子者で、仕事はまだまだ半人前。

ライラ嬢

庶民的バブのウェイトレス。灰色がかった緑の瞳の、
チャームینگな十七歳。おしゃべり。接客は大のお得意。
特に、男のは。

エリック・エリクソンさん

プレゼントされた山高帽のサイズに悩む、心優しい老
紳士。ちょっと変わったクラブ「S・O・N」のメンバ
ー。

ピエント氏およびその奥方

保養地管理人夫妻。ピエント氏はおしゃれさんで、動
物が大好き。奥さんはすぐ太っていて、料理がとても
上手だ。ピエントさんは長年がりがりの痩せっぽちな
がコンプレックスだったが、奥さんと結婚してはじめて
太ることができた……そのかわり、血液検査の数値もひ
どいことになったけど。

コランダー捜査官とライオネル捜査官

平和な保養地にいきなりやってきたいかめしい仕事の
ひとたち。でもこの職業のひとたちは、意味もなくうろ
うろするわけではない。たぶん。

ホープニッツエル教授

古代種研究の専門家。ミッドガル大学名誉教授。でも、
教授と名のつく人間にはろくなのがない。有名どころ
だと、犯罪界のナポレオン、モリアーティ教授なんか
がいる。頭がよすぎると、人間ろくなことになるいつて
ことさ、とその昔ザックスの母ちゃんは息子に云って、

あまり勉強しすぎないように厳しくしつけたらしい。もちろん、このことがそっくりそのままこの教授に当てはまるとはかぎらないけど。

クルスとベツポ

犯罪組織の一味。クルスは小柄でびっくりするくらい鼻が大きく、赤い。ベツポはのつぽで、びっくりするくらい顔が長い。

シノザキ助手

ホープニツツエル教授の研究助手。ウータイ系の移民で、才能はあるのに、身なりにまったくかまわないことと、コミュニケーション能力に劣るので出世とは縁遠い。うつむきかげんで、なんとなく暗い、あまり近寄りたくない感じのひと。たぶん、本人のせいばかりではないと思うけど。

マチエツトじいさん

神羅軍のお抱え乗り物整備士。本人曰く、誇り高きエンジニア。空を飛ぶ乗り物なら、なんでも直せる。年齢不詳。寮の地下に住んでいて、天涯孤独の身の上。クラウドがいつかは自分の跡を継いでくれると信じていて、

のべつ勧誘している。クラウドも、まあそれもいいかな、なんて思うときもある。

ペネロペ嬢

ギャングの親玉の、いわゆる慰安をかねた奉仕をする婦人。脱色したふわふわの金髪と、官能的なボディラインを持ち、「イット」をとことんまで追求したタイプ。ザックスとは、いわくのある関係。

エアリス嬢

茶色の巻き髪がチャーミングな女性で、ザックスの彼女。ミッドガルで花を売っているけれど、性格がその花のように可憐だなんて思っていると、痛い目に遭う。要するに、ひとは見た目じゃないってこと。

ビルヒエさん

『アイシック・リポート』の専属ベテラン記者。トレードマークはハンチング帽。コランダー捜査官の友だち。

すごく早口。新聞社を代表して、ホープニッツエル教授にインタビューした。

ストライフ君

『アイシック・リポート』のシャイな新米記者。ニツカボツカスタイルとキャスケット帽がトレードマーク。でもこのお話の中に、ストライフという名字の人間はひとりしかない。念のため。

パトリス君

ソルジャークラス2nd。ザックスの同期。根っからの陽気な性格で、悩みごと也十分と続かないのが悩み。ドーナツが大好き。

カドバン准教授

ホープニツツエル教授の研究チームの一員。長年教授といっしょに研究をしているけれど、自分は日陰の存在ですっかり満足している。世の中には、こういうひともある。かと思えば、どうしても日が当たらないと満足しないひともある。そういうひとが日陰にいることを余儀なくされると、とたんにややこしいことになる。

バロツサ、フリッツ、シュミット、カーニング

捜査局捜査官の面々。容姿は特に記載しないので、年齢も顔も好きに想像してほしい。でも、たぶんみんな美形ではない。

レノ

神羅カンパニー総務部調査課通称タークスのメンバー。ニンジンみたいな赤毛。ちよつと変なしゃべり方をする。ザックスと口汚くののしりあうのが得意。

街のお医者

いちじるしく太く、濃い眉を持った、夜間往診に対応している数少ないお医者さんのひとり。名前はああるけど、すごく複雑で、ちよつとここには書けない。

その他、名前も肩書きもないひとびと

物語では、みんながみんな主役ってわけにはいかない。でも、名前もなく話に一度も登場しないようなひとたち

がないと、物語ははじまりようがない。今回の場合は、
プレジデント神羅の口述筆記を任されている秘書。もし
このひとがヒステリーを起こしたり風邪を引いたりして、
プレジデントに指示された手紙を書かなかったら、この
お話は永遠にはじまらなかった。脇役万歳。

この作品における舞台、人物、その他の設定

時代

クラウドが神羅軍所属。ザックスはセフィロスの相棒。セフィロスは仕事が嫌いなのでだだをこねて引退しかけている、たぶん英雄。

舞台

架空の、神羅が開発した世界をつなぐ豪華大陸鉄道「コンチネンタル・エクスプレス」車内および、アイシクルエリアにあるトルギポリという架空の街および、その北にある架空の保養地および、街の北西にある架空の古代種遺跡（ふう！）。

人物の性格

だいたい普段書いている短編に準ずる。

人物相関関係

最重要！ この話は、ほかのすべての作品群から独立

している。セフィロスとクラウドは恋愛関係にあるのは周知の事実だが（やれやれ）、この話に限っては、この事実はクラウドの母さんに正式に認められている。クラウドの母さんはセフィロスを知っていて、いい話相手だと思っている。ザックスとエアリスは恋愛関係にある。こっちは公式だから、文句は認めないつもり。

諸注意

実はこれに先立つ、夏のバカンスの話があつて、でもそのお話はこれを書きながら思いついたので、残念ながら、まだお見せすることができない。たとえば、クラウドの母さんとセフィロスはそのお話の中で知り合う予定だったりする。作品中に前段階の作品があることをほめかす記述がいくつかでてくるが、この前作というわけは、あなたの目だけに見えない素材でできているわけではないし、わたしが公開するのを忘れていたわけでもない。わたし自身にも見えない。でも、小説って前がわからなくても後ろが書けたりする。これって、相当変だと思ふ。

大事なこと！

心にゆとりを！

他人のすべてを好きになることが

あり得ないように、小説のすべてを好きになることも不可能なことだ。技術的な問題で、こんなへたくそな小説は反吐が出そうだ、とか思われるのは、書き手の責任だ。でも、読み手の好き嫌いばかりは、書き手の責任ではありません！

タイムスケジュール

細かいところが気になる、愛すべき方のために。

12/01

一同コンチネンタルに乗り、ミッドガルステーションを出発する。

12/02

トルギボリ到着。ゲインシユタルトさん登場。クラウド、ガス・ピストルを買う。コテージへ移動する。

12/03

ホープニツツエル教授の記事、「アイシック・リポート」に掲載される。

12/04 おやすみ 12/05

やりすぎされる。

12/06

コランダー・ライオネル両捜査官、コテージへ来る。セフィロス、マグリム氏およびマティルダ嬢へ、お見舞いの手紙を書く。

12/07 および 12/08

やりすぎされるが、八日にマティルダ嬢から手紙のお礼の電話が来る。

12/09

一同、マグリム氏とマティルダ嬢のお見舞いに出かける。捜査局に顔を出し、見事事件に巻きこまれる。ザックス、ミッドガルへ帰る。

12/10

ピルヒェさん、捜査に導入される。

12/11

ストライフ少年の登場。そして表舞台からの退場。ザ

ックス、カドバン准教授と面会し、驚愕の事実を知る。
セフィロス、実地調査へ。

12/19

見舞いラッシュ、発生する。

12/12

みんな神殿へ向かう。セフィロス、アルテマをぶっぱ
なす。クラウド、夜中に熱を出す。

12/20

クラウド、おおむね回復する。

12/13および12/14

クラウドが寝こんだままやりすごされる。

12/15

クラウドの母さんとエアリス嬢、北の保養地へ召還さ
れる。

12/16および12/17

やりすごされる。

12/18

クラウド、目を覚ます。

12/21

ザックスとクラウドとピエントさん、樅の木を手に入る。

12/22

みんなでトリギボリへ買い出しに行く。

12/23

クリスマスの準備に追われる。

12/24

クリスマスイブ。

12/25

クリスマスパーティー、開催される。

12/25以降

年明けまで一気に時間が飛ぶ。